令和８年１１月１６日

福岡市医連ニュース

福岡市医師連盟
福岡市早良区　百道浜１丁目６－９
（福岡市医師会内）
委員長　菊池　仁志

注目の福岡市長選挙 史上初の再選挙確定

調たかし候補　猛追も当選ならず

福岡市長選挙開票結果（投票率45.58％）

1. 稲富　修二　氏(56)	137，667票	無所属
2. 新村　　優　氏(46)	93，824票	無所属
3. 森　健太郎　氏(48)	93，206票	日本保守党公認
4. 調　　崇史　氏(48)	71，964票	自民党市議団推薦
5. 神野　元基　氏(41)	48，195票	無所属
6. 吉富　景子　氏(37)	46，156票	参政党推薦
他7名	：	

福岡市政の未来は改めて市民の判断に

▽11月15日（日）、任期満了に伴う福岡市長選挙の投開票が行われた。今回の市長選は、戦後最多の13名が立候補を表明する異例の大混戦となり、開票の結果、最多得票となった元衆院議員の稲富修二氏（56）も当選に必要な法定得票数（有効投票総数の４分の１）に届かず、公職選挙法の規定により再選挙となることが確実となった。政令指定都市の市長選で再選挙となるのは、２００３年の札幌市長選以来、全国で2例目となった。今回の福岡市長選挙は、選挙戦当初から票の分散による再選挙の可能性が指摘されていた。

気になる再選挙の動向

▽市医連が推薦した調たかし候補（48）は７万１，９６４票を獲得し４番手となった。高島市政４期16年の成長路線を継承しつつ、医療・介護・福祉の現場と連携した「暮らしへの還元」を訴えた調候補だったが、自民党本部の推薦見送りという中で、序盤は知名度の浸透に苦しんだものの、選対本部長を務めた鬼木誠衆院議員や選対副本部長の古賀篤衆議院議員、自民党市議団が終始一貫して支援を継続。選挙戦終盤には、小野寺五典党税制調査会長も応援に駆け付ける等、市内各地で開いた個人演説会や総決起大会を通じて支持層を拡大し、巻き返しを図ったが及ばなかった。市医連は今回の選挙結果を受け、改めて再選挙に向けた対応を検討することとなった。

≪ご案内≫
市医連情報は、福岡市医師連盟ホームページ内の公式フェイスブックにて随時更新していますので是非ご閲覧ください。